

## 大学生による学校現場でのピア・サポート訓練の取り組み —実施方法について—

三宅 幹子・山崎 理央・松田 文子

ピア・サポートとは、仲間同士の支え合いの活動のことであり、近年、学校現場においてもさまざまな形で導入されてきている。学校現場でのピア・サポートの実践の一例として、心理学科に所属する大学生による、小学校・中学校の特別活動の時間におけるピア・サポート訓練の実施について、その導入の経緯や背景、および実施方法を紹介する。

[キーワード ピア・サポート, 小・中学校, 大学生]

### 1. ピア・サポートとは

「ピア・サポート」と呼ばれる活動が近年とくに学校現場で注目され、その導入の試みも広がってきている。仲間を意味するピアとは、学校現場においてはともに学ぶ先輩後輩を含んだ生徒同士の関係である。彼らは年齢の近い同年代の仲間として興味や関心を共有するだけでなく、学校という共通の環境に身をおきながら共通の内容を学習している。すなわち、彼らは日頃の学校生活のなかで時間と空間を共有し、仲間関係を自然と築いていきながら、楽しみや喜びはもちろん、悩みや困難もさまざまに分ち合っていることであろう。

このような互いに支え合うという性質は仲間関係にもともと内在するものであり、それをよりよく生かすための働きかけもまた、いろいろな形で学校現場や地域のなか存在していることは言うまでもない。たとえば、学校行事や集会のおりになされる異学級や異学年の交流、委員会活動やクラブ活動、地域における子ども会の活動などである。

一方で、近年は子どもたちの人間関係の弱さや、仲間関係を築くことのむずかしさもよく指摘されるようになった。学校現場の抱える大きな課題である不登校やいじめなども、この仲間関係の質ということと深くつながるテーマであろう。これらはまた、学校という環境がもつ役割として、知識の習得だけでなく、集団のなかでの自己表現や人間関係の力を育てるという側面も決して軽視できないという再認識を促しているとも考えられる。

日本には近年紹介されはじめたピア・サポート活動であるが、もともとはカナダや米国などの諸外国で生まれたものであり(増田, 2004; ヤギ・増田, 2004), 学校にかぎらず地域や会社などさまざまな分野において、支援の方法を学んだ人々が、困っている仲間を援助す

るといふ活動を展開している。「ピア・カウンセリング」や「ピア・ヘルピング」、「ピア・チュータリング」、「ピア・ミディエーション」などさまざまな名称があり、かかわる年代も大人から子どもまで幅広く、その多様な活動内容は、学校で行なう場合には一般に「ピア・サポート」と最近では呼ばれている（森川，2002）。このピア・サポートの活動は、日本の学校現場においても1998年以降に導入されはじめ（池谷・葛西，2003）、仲間を支援する方法を習得するための訓練プログラムも考案されてきている（森川，2002）。

ピア・サポート訓練のプログラムは主に、自己紹介や自己理解・他者理解のためのワークをとおしての関係づくり、傾聴・質問の技法やアサーションなどのコミュニケーションスキルの学習、さらに話し合いや問題解決に関するスキルの学習といった内容で構成される。これらはゲームやレクリエーションの要素を取り入れて、楽しみながら体験的に学べるように工夫されており、各自が実施のうえで参考にできるように実践内容がまとめられた書籍も出版されている（たとえば、コール，2002；菱田，2002など）。

なお、ピア・サポート活動というときには、その意味するところはかなり多様であり、ピア同士で支え合えるような関係や雰囲気をつくりだす活動によって作りだす活動を指す場合から、訓練を受けたサポーターが支援を必要とする仲間に対して実際にサポートを行なう活動、さらにその活動の支援までの一連の活動を指す場合まで、現場の状況や生徒の力量などに応じてさまざまな形態が存在している。いずれにせよ、前述したような諸問題への対症療法的な対策だけでなく、予防的・開発的な教育活動の一環としての、仲間関係という資源づくりの新しい取り組みといえる。

ピア・サポート活動の実践については、現場の教師によるさまざまな取り組みの報告が出されている（たとえば吉田，2003；中林，2005）ほか、訓練プログラムの導入や評価に関する研究も増えている。たとえば池谷・葛西（2003）は小学校におけるピア・サポート・プログラムの授業実践とその効果の検証を行ない、自尊感情や社会的スキルに関する効果について論じている。古屋・中野（2004）は小学校における8カ月間のプログラムを実施してその効果を検証しているが、そのプログラムには授業実践はもちろん、研究者と学校側との協議やニーズ調査、授業の効果測定やスキルの維持般化を含んだ介入モデルが適用されており、組織的な学習カリキュラムと評価システムを提示している。また、増田（2004）によるイギリスの視察報告など、諸外国における学校現場の実践も、近年数多く紹介されている。

## 2. ピア・サポート訓練実施の経緯

さて、本研究では、そのような学校現場での実施の一例として、心理学科に所属する大学生による、小学校・中学校の教育現場でのピア・サポート訓練の実施について、その実施プロセスを紹介する。ピア・サポート訓練の対象となった小学校・中学校は、中国地方の地方都市近郊にある小規模校で（1学年に十数名程度が在籍し、1学年は1学級のみ）、国立教育

## 大学生による学校現場でのピア・サポート訓練の取り組み

政策研究所の小中連携教育の研究指定校であった。これらの学校では、保育所から中学校卒業までの期間を、ほぼメンバーの固定した少数人の同級生と一緒に過ごす状況であり、教師は、そのために生じる児童・生徒の人間関係の流動性の少なさやお互いに対するイメージの固定化に、問題意識を感じていた。また、小学校から中学校への移行期における自己効力感や自尊感情の低下も問題視されていた。このような状況に対し、児童・生徒の間のより柔軟な人間関係づくり、社会性の伸長、自己効力感・自尊感情の向上をめざして、ピア・サポート訓練の導入が決定された。こうした背景から、小学4年生と中学1年生がピア・サポート訓練の対象として選定された。すなわち、問題が顕在化してくる中学1年生の時期と、問題の潜在的な下地ができはじめると考えられる小学4年生に焦点を絞ったのである。

本研究はさまざまな特色を備えたものであるが、主要なものを列記するならば、まず1つ目に、ピア・サポート訓練の実施者が大学生であるという点があげられる。心理学科に所属する大学生が大学教員の指導のもと、小・中学校に出向いて実施したのであるが、大人よりも少し自分たちに近く、親しみやすい大学生が実施することによって、児童・生徒にとってはピア・サポート訓練の魅力が増すとともに、比較的近い将来のモデルとしての役割も果たすと考えられる。また実施者側の大学生達にとっては、大学の学びを自らの手によって実践に移す場を与えられたわけであり、自身の成長も大いに期待できる場であった。

また、2つ目には、ピア・サポート訓練は小・中学校の正規の教育課程の中で実施されるものであり、同時に大学生の側でも大学の正規の授業である「心理学課題実習」の一環として取り組んでいた。すなわち、小・中学校、大学、地域の教育委員会の連携のもとに小・中学生、小・中学校教師、大学生、大学教員、教育委員会の5者によって成り立った取り組みであった。

そして、3つ目にはピア・サポート訓練の参加者は、児童・生徒とその担任教師はもちろん、当該小・中学校の校長や教頭、他学年の担任教師、教育委員会の職員、大学教員、ピア・サポート実施者以外の大学生など、学級を訪れるすべての人であり、原則としてその場にいるすべての人が当事者となる活動であった。すなわちピア・サポート訓練の場には児童・生徒を遠巻きに眺める存在はおらず、教師も職員も、児童・生徒と活動をシェアする“ピア”としてその場に加わっていた。

こうした特質から、本取り組みの成果として、ピア・サポート訓練を受ける児童・生徒側の効果に加えて、ピア・サポート訓練を実施する大学生の側にも、訓練を実施する過程におけるピア・サポートについての学びや、体験的な活動を通しての成長が期待される。また、それを取り巻く小・中学校の教師における意識の変化や学校内の雰囲気の変化、小・中学校、大学、教育委員会、地域の連携にもポジティブな変容が生じると予測される。このように多くの可能性をはらんだ取り組みであるが、ここではまず、ピア・サポート訓練の具体的方法について述べるにとどめ、成果については松田・三宅(2005)など以後の報告に譲る。

### 3. ピア・サポート訓練の実施方法

**ピア・サポート訓練実施者** 地方私立大学心理学科3年生6名（うち3名が小学校，3名が中学校で実施した。いずれの3名も，男性2名，女性1名の構成であった）。いずれも，大学教員（本稿の第一著者，および第三著者。両者とも大学生を対象としたピア・サポート訓練の授業を実施した経験を持つ）の指導のもとで実施した。

**ピア・サポート訓練の対象となった小学生・中学生** 小学校4年生（男子7名，女子4名），および中学校1年生（男子8名，女子6名）であった。いずれも当該学年の児童・生徒全員と担任教師（各学年とも1名ずつ）が参加していた。

**効果測定** 児童・生徒，小・中学校教師，大学生を対象とした効果測定を，ピア・サポート訓練実施前の2005年4月初旬，ピア・サポート訓練終了後の2005年7月中旬に実施した。さらに効果の持続性を調べるための調査を2005年12月に実施する予定である。実施方法や測定内容については，松田・三宅（2005）等において詳しく述べ，ここでは割愛する。

**ピア・サポート訓練の実施概要** 2005年4月中旬から7月初旬にかけて，毎週1回木曜日の5時限目の特別活動の授業において，計10回を実施した。小学校では45分間，中学校では50分間であった。毎回，大学生3名ずつが小学校・中学校に出向き，3名のうちいずれか1名がリーダーとなり，残りの2名がリーダーをサポートをしながら訓練を進めた。毎時間の終わりには，当該時間の活動を通じて感じたことや気づいたことを「ふりかえりシート」に記入するようにしていた。参加者は児童・生徒と担任教師に加え，校内の教師も積極的に参加した。教育委員会の職員や大学教員が加わる回もあった。大学生は菱田（2002）などを参考に，前もって10回分のテーマと概要を決め，全体の見通しをもって実施を始めた。訓練開始前の2005年4月初旬には，小・中学校の教師と大学生，大学教員が合同で，半日かけて，実際に小・中学校で用いる訓練プログラムの予行演習や効果測定の計画説明会等を含んだ事前研修を行った。また，大学生は毎回のピア・サポート訓練の実施前に詳細な指導計画を作成し，大学教員および小学校・中学校の教師と打ち合わせを綿密に行ったのちにピア・サポート訓練に臨んだ。

**ピア・サポート訓練の指導計画と毎時の内容** 小学校，中学校の10回分の指導計画（毎時のテーマ，内容，準備物，配布物等）の概略をそれぞれ，表1，表2に示す。毎時の活動は，ピア・サポート訓練に向けて気持ちをほぐしていくウォーミングアップ的な活動や前時の内容を振り返る【導入】，各回のテーマに沿ったメインの活動である【主活動】，本時での活動内容や，そこでの気づきを振り返る【まとめ】，の3つの部分から成り立っていた。また，第1回から第10回までのテーマについては，はじめの頃には比較的ゲーム要素を含み楽しさを十分感じられるようなものを配置し，次第に自分自身や周囲との人間関係について深く考えることを要求する内容へとシフトしていくようにしてあった。

## 大学生による学校現場でのピア・サポート訓練の取り組み

表1 小学校用ピア・サポート訓練の指導計画と毎時の内容

<b>第1回</b>		実施日：4月14日，場所：教室
テーマ	みんなで自己紹介 ・ピア・サポートがどのようなものか，ピア・サポートの進め方を知ろう ・人の話をきちんと聞けるようになる	
内容	<b>【導入】</b> 実施者である大学生の自己紹介，ピア・サポートの説明（ピア・サポートの目標を提示），毎時のピア・サポート訓練の進め方の説明 <b>【主活動】</b> ・お誕生日の輪 [輪になって，まずは自己紹介として，氏名，誕生日，好きな食べ物，みんなへのメッセージなどを発表する。一巡したのち，今度は，隣の人の氏名，誕生日などをみんなに向けて紹介する] ・フルーツバスケット <b>【まとめ】</b> 活動のまとめ，ふりかえりシートへの記入	
準備物	進行表（訓練の進行概要を記載した模造紙）	
配布物	児童用テキスト（授業計画ほか），ふりかえりシート	
<b>第2回</b>		実施日：4月21日，場所：教室
テーマ	あなたってどんな人・この人は誰でしょう ・質問ゲームを通して，いろいろな人と話そう ・自分から進んで質問できるようになる	
内容	<b>【導入】</b> 前回の振り返り [ふりかえりシートの感想をいくつか紹介]，今回のリーダーを紹介 <b>【主活動】</b> ・“あなたってどんな人” [参加者間で質問用紙に書かれた質問をし合い，質問に該当する人を捜し当てるゲーム] ・“この人は誰でしょう” [参加者全員が自分について答えた質問用紙を集め，その内容を読み上げながら，誰の用紙かを当てさせるゲーム] <b>【まとめ】</b> 活動のまとめ，ふりかえりシートへの記入	
準備物	進行表，だれだれBOX [“この人は誰でしょう”で使用]	
配布物	児童用テキスト，質問用紙（2種），ふりかえりシート	
<b>第3回</b>		実施日：4月28日，場所：体育館
テーマ	ブラインドウォーク，トラストウォークと一方通行のコミュニケーション ・サポートを体験し，その大切さを知ろう ・よりよいコミュニケーションについて知ろう	
内容	<b>【導入】</b> 前回の振り返り，ピア・サポートの目標を提示，今回のリーダーを紹介 <b>【主活動】</b> ・ブラインドウォーク [目をつぶって目標地点まで歩いてみるゲーム] ・トラストウォーク [目隠しをした子どもとしていない子どもとがペアになり，障害物のあるコースを助け合って進み，ゴールを目指すゲーム] <b>【まとめ】</b> 活動のまとめ，ふりかえりシートへの記入	
準備物	進行表，ひも [ブラインドウォークに使用]，だれだれBOX [ペアをつくる際に使用する箱とカードのセット]，バンダナ [目隠しとして使用]，ヒントカード・跳び箱・マット・輪・椅子など [トラストウォークに使用]	
配布物	児童用テキスト，ふりかえりシート	
<b>第4回</b>		実施日：5月12日，場所：教室
テーマ	一方通行のコミュニケーション，ブレインストーミング ・自分の思っていることと，他者の思っていることの違いについて知ろう ・友達の喜怒哀楽について知ろう	

三宅幹子・山崎理央・松田文子

内容	<p>【導入】前回の振り返り，ピア・サポートの目標を提示</p> <p>【主活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一方通行のコミュニケーション [口頭で一方向的に与えられる教示を聞いて各自のイメージした絵を描く (できあがるまでお互いの絵は見ない)]</li> <li>・ブレインストーミング [悲しい，嬉しい，怒る，怖い，考える，わくわくする，の6種の感情カードから1枚を引き，引き当てたカードに書いてある感情を，ジェスチャーでその他の子どもたちに伝えるゲーム]</li> </ul> <p>【まとめ】活動のまとめ，ふりかえりシートへの記入</p>
準備物	進行表，絵の例，だれだれBOX
配布物	児童用テキスト，描画用紙，ふりかえりシート
第5回	実施日：5月19日，場所：教室
テーマ	<p>話し方と聞き方のロールプレイング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き手の姿勢や態度の大切さを知ろう</li> <li>・相手を見る，向かい合う，相手が話しやすい雰囲気をつくる，話を聞いていることを言葉や態度で示す，など話を聞くときの行動の大切さを知ろう</li> </ul>
内容	<p>【導入】前回の振り返り，ピア・サポートの目標を提示，今回のリーダーを紹介</p> <p>【主活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・“うまく話が伝わるかな” [説明役と描く役の2人組になり，与えられた絵について①説明役からの一方通行のコミュニケーションで，②説明役と描く役の相互のコミュニケーションで，の2パターンで，絵を完成させるゲーム]</li> <li>・“ちゃんと聞いてよね” [話す役・聞く役・見る役の3者1組となり，提示されたテーマについて話をする。聞く役には，①興味のない，②自分勝手な，③関わり合う，の3パターンが設けられ，その他の役には秘密でそれぞれのパターンに従ってロールプレイを行うゲーム]</li> </ul> <p>【まとめ】活動のまとめ，ふりかえりシートへの記入</p>
準備物	進行表，課題絵，だれだれBOXと聞き役カード，描画用紙
配布物	児童用テキスト，ふりかえりシート
第6回	実施日：5月26日，場所：教室
テーマ	<p>協力するために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで協力し課題の完成をめざすことで，協力の大切さを知ろう</li> <li>・よりよい協力ができるようになるう</li> </ul>
内容	<p>【導入】前回の振り返り，ピア・サポートの目標を提示</p> <p>【主活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・“協力するために” [4人グループになり，グループで1つのパズルを完成させる。1回実施したのち，そこでの協力のしかたについて，良かった点，改善するべき点を発表し合う。2回目では，それらの点を確認・改善しながらよりよい協力のしかたを念頭においてパズルを完成させる。2回目を実施してみて感じたことや，他のメンバーの良かった点をグループ内で出し合い，意見をグループのまとめ用紙にまとめる]</li> </ul> <p>【まとめ】活動のまとめ，ふりかえりシートへの記入</p>
準備物	進行表，パズル(2種)，まとめ用紙 [グループでの話し合いで使用]
配布物	児童用テキスト，反省用紙
第7回	実施日：6月9日，場所：教室
テーマ	<p>上手な指示の出しかた</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手に好意的に受け止めてもらえる上手な指示の出しかたを体験しよう</li> <li>・コミュニケーションの大切さに気づこう</li> <li>・上手な指示の出しかたを身につけて，リーダーシップをとる力を養おう</li> </ul>
内容	<p>【導入】前回の振り返り，ピア・サポートの目標を提示</p> <p>【主活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・探検ゲーム [4～5名ずつ4つのグループに分かれて紙上探検をするゲーム。リ</li> </ul>

## 大学生による学校現場でのピア・サポート訓練の取り組み

	<p>リーダーのみがゴールへの道順が描かれた地図を見ることができ、メンバー全員が各自の紙上でうまくゴールできるよう口頭で指示を出す。リーダー以外のメンバーは、リーダーからの指示や紙上に描かれた手がかりを用いてゴールをめざす。リーダーの役割を交代しながら、3回実施]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・探検ゲームへの取り組み方についてグループで話し合い、発表する [リーダーの指示の出しかたの良かった点や、変えたほうが良い点など、グループ内で意見を出し合い、その後、クラス全員の前でグループとしての意見・感想を発表]</li> <li>・リーダーのエピソード紹介 [大学生リーダーが、自分自身の部活動でのリーダーシップについての体験談を紹介]</li> </ul> <p>【まとめ】活動のまとめ、ふりかえりシートへの記入</p>	
準備物	進行表、地図、リーダーたすき (4本)、感想プレート (発表用)	
配布物	児童用テキスト、紙上探検用紙、ふりかえりシート	
<b>第8回</b>		実施日：6月23日、場所：教室
テーマ	大切なものランキング ・前回までのピア・サポートで身につけたことを生かしてグループ内で話し合いをしてみよう	
内容	<p>【導入】前回の振り返り、ピア・サポートの目標を提示</p> <p>【主活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・無人島に必要なものランキング [「無人島に行くとしたら」という想定のもとで持参するもののランキングを行う。8つのものを優先順位の高い順にランキングし、1位、2位、8位についてはその理由も記入する。まず個人で実施し、次にクラスを2つのグループに分け、グループ内で話し合っ1つのランキングへと話し合いでまとめる。グループのランキングを発表し合う]</li> <li>・リーダーのエピソード紹介 [大学生リーダーが、野球での仲間との協力について自分自身の体験談を紹介]</li> </ul> <p>【まとめ】活動のまとめ、ふりかえりシートへの記入</p>	
準備物	進行表、食材など8つのもののサンプル、まとめ用紙	
配布物	児童用テキスト、ふりかえりシート	
<b>第9回</b>		実施日：6月30日、場所：教室
テーマ	上手なことわりかた ・相手と自分の両方を大切にしたことわりかたを学ぼう	
内容	<p>【導入】前回の振り返り、ピア・サポートの目標を提示</p> <p>【主活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・“あなたのことわりかたは？” [大学生のロールプレイをみて、そこでの各自のことわりかたをシートに記入する]</li> <li>・ことわりかたのタイプ分け [①『いばりやさん』のジャイアンタイプ、②『おどさん』ののびたくんタイプ、③『さわやかさん』のしずかちゃんタイプの3種類のことわりかたを児童の代表者がロールプレイし、自分はどのタイプか、それぞれの良いところと悪いところを考える]</li> <li>・ことわりかたの4つのポイント [『さわやかさん』に近づくポイントを紹介]</li> <li>・リーダーのエピソード紹介 [大学生リーダーが自分のことわりかたについて話す]</li> <li>・ロールプレイ “これからのあなたのことわりかたは？” [大学生が場面設定をし、その中で児童の代表者がロールプレイ]</li> </ul> <p>【まとめ】活動のまとめ、ふりかえりシートへの記入</p>	
準備物	進行表、絵カード [黒板に掲示]	
配布物	児童用テキスト、ふりかえりシート	
<b>第10回</b>		実施日：7月7日、場所：教室
テーマ	解決の方法を考える ・問題の解決方法は1つではないことを知ろう ・1番の解決方法は人によって違うことを知ろう	

内容 【導入】前回の振り返り、ピア・サポートの目標を提示  
 【主活動】  
 ・“解決の方法を考える” [大学生のロールプレイをみて、そこでの各自の問題解決のしかたをシートに記入する。つぎに学級を3グループに分け、各グループに大学生リーダーが入り、KJ法の手法を利用してグループメンバーの意見をまとめる。グループごとに結果を発表]  
 ・相談を受けるときの心構え(守秘義務など)について大学生リーダーからの説明  
 【まとめ】活動のまとめ、ふりかえりシートへの記入

準備物 進行表、模造紙とカード [KJ法に使用]

配布物 児童用テキスト、ふりかえりカード

注. 第6回には、みんなのいいところ発見シート [学級メンバーのいいところを一人ひとりについて記入するようになっている用紙] を配布し、第7回までに各自記入してくるようになっていた。その内容の発表とまとめの作業を、第11回として、7月14日に行っている。

表2 中学校用ピア・サポート訓練の指導計画と毎時の内容

第1回	実施日：4月14日，場所：ランチルーム
テーマ	ピア・サポートを始めよう ・ピア・サポート訓練の目的，進め方を理解しよう ・仲間のことを改めて知ろう
内容	【導入】実施者である大学生の自己紹介，ピア・サポートの説明(ピア・サポートの目標を提示)，毎時のピア・サポート訓練の進め方の説明 【主活動】 ・“心の文字” [声を出さないで全員で協力して人文字をつくる] ・“他己紹介” [2人のペアになり両者間でインタビューし合う。その後自分とペアになった人を全員に向けて紹介する] 【まとめ】活動のまとめ，振り返りシートへの記入
準備物	進行表(訓練の進行概要を記載した模造紙)
配布物	生徒用テキスト(授業計画ほか)，振り返りシート
第2回	実施日：4月21日，場所：ランチルーム
テーマ	自分を知ろう ・自分らしさを表現しよう ・他人から見た自分を知ろう
内容	【導入】前回の振り返り [振り返りシートの感想をいくつか紹介]，ウォーミングアップ“自分らしさを表現しよう” [Yes/Noクイズ形式で質問に答える] 【主活動】 ・“気になる自画像” [4つのグループに分かれ，形容詞群のなかからそれぞれのグループメンバーに該当するものを選ぶ。メンバー間でどのような形容詞を選んだかを本人に伝え，結果について話し合う] 【まとめ】活動のまとめ，振り返りシートへの記入
準備物	進行表
配布物	生徒用テキスト，振り返りシート
第3回	実施日：4月28日，場所：ランチルーム
テーマ	サポートについて ・サポートとは，「援助」「支える」とはどういうことを言うのだろうか ・サポートの基本的な考え方を知ろう
内容	【導入】前回の振り返り，テーマの説明，ウォーミングアップとしてブラインドウォーク [目をつぶって指示に従い歩いてみる] 【主活動】



大学生による学校現場でのピア・サポート訓練の取り組み

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トラストウォーク [2人一組となり、交代で、目をつぶっている相手を無言で誘導してゴールへと安全にたどりつけるようサポートする。安心感が得られた点、不安を感じた点について話し合う]</li> </ul> <p>【まとめ】活動のまとめ、振り返りシートへの記入</p>	
	準備物 進行表	
	配布物 生徒用テキスト、振り返りシート	
<b>第4回</b>		実施日：5月19日、場所：ランチルーム
テーマ	積極的な話の聴き方 <ul style="list-style-type: none"> <li>・困った時に相談したい人とはどういう人か考えてみよう</li> <li>・ロールプレイを通して話の聴き方の良い姿勢を学ぶ</li> </ul>	
内容	<p>【導入】前回の振り返り、テーマの説明、ウォーミングアップ“私はこんな人に相談する” [各自シートに記入した後、発表]</p> <p>【主活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話の聴き方のロールプレイ [2人一組となり、①偉そうな聴き方、②関わりの少ない聴き方、③関心を持つ積極的な聴き方、の3パターンでロールプレイを行う。聴き方を比べ、どのような違いを感じたかを発表]</li> <li>・聴き方のポイント“FELOR”を大学生リーダーが説明</li> </ul> <p>【まとめ】活動のまとめ、振り返りシートへの記入</p>	
	準備物 “FELOR”をまとめた模造紙	
	配布物 生徒用テキスト、振り返りシート	
<b>第5回</b>		実施日：5月26日、場所：ランチルーム
テーマ	質問しよう <ul style="list-style-type: none"> <li>・質問の仕方“SWIH”を身につけよう</li> </ul>	
内容	<p>【導入】前回の振り返り、テーマの説明、ウォーミングアップ“質問バトル” [質問役と答える役の2人一組で長く話を続けるゲーム]</p> <p>【主活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・“SWIH”を大学生リーダーが説明</li> <li>・“SWIH”を使って部活動の話題でお互いに話を聴き合う</li> <li>・1分間スピーチ [相手についてわかったことを1分間で発表]</li> </ul> <p>【まとめ】活動のまとめ、振り返りシートへの記入</p>	
	準備物 “SWIH”をまとめた模造紙	
	配布物 生徒用テキスト、振り返りシート	
<b>第6回</b>		実施日：6月2日、場所：ランチルーム
テーマ	話し合ってみよう <ul style="list-style-type: none"> <li>・一方通行のコミュニケーションを体験してみよう</li> <li>・“私の学校”を通じて話し合ってみよう</li> </ul>	
内容	<p>【導入】前回の振り返り、テーマの説明、ウォーミングアップ“流れ星” [口頭で一方的に与えられる教示を聞いて各自のイメージした絵を描く(できあがるまでお互いの絵は見ない)]</p> <p>【主活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・“私の学校” [5人グループになり、各メンバーの持っている情報カードのヒントをもとに、グループで協力して学校の配置図を完成させるゲーム。各自の情報カードを他のメンバーに見せてはならず、情報は口頭で伝える]</li> </ul> <p>【まとめ】活動のまとめ、振り返りシートへの記入</p>	
	準備物 進行表	
	配布物 生徒用テキスト、振り返りシート	
<b>第7回</b>		実施日：6月9日、場所：ランチルーム
テーマ	自分を表現しよう <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見をみんなの前で発表しよう</li> </ul>	

三宅幹子・山崎理央・松田文子

	<p>・他者や自分を大切にしている話し合いの仕方を体験しよう</p> <p><b>内容</b> 【導入】前回の振り返り、テーマの説明、ウォーミングアップ“冒険に必要なもの” [無人島に探検に行く際に必要な物を各自で1つ決め、発表。良い発表の仕方、聴き方のポイント“FELOR”を実践する]</p> <p>【主活動】</p> <p>・“冒険に必要なもの順位付け” [グループに分かれ、提示されたもののなかから、必要な物1位～3位とその理由を話し合っ決めて。その進行役を決め、メンバーの意見がきちんと言えよう話し合いを目指す]</p> <p>・話し合いの結果を発表</p> <p>【まとめ】活動のまとめ、振り返りシートへの記入</p> <p><b>準備物</b> “FELOR”をまとめた模造紙</p> <p><b>配布物</b> 生徒用テキスト、振り返りシート</p>	
<b>第8回</b>		実施日：6月23日、場所：ランチルーム
	<p><b>テーマ</b> 紙上相談</p> <p>・自分の悩みを書き出してみよう</p> <p>・悩みの解決策を話し合おう</p> <p><b>内容</b> 【導入】前回の振り返り、テーマの説明、ウォーミングアップ“悩みあれこれ” [悩みを思い出して書き出す]</p> <p>【主活動】</p> <p>・解決策を出し合おう [悩みの中から、相談しても良いもの1つを選び出し、紙上相談シートに記入する。グループになり、シートをまわしてメンバーの悩みに対して紙上で質問したり、解決策を提案したりする。終了後、感想を発表し合う]</p> <p>【まとめ】活動のまとめ、振り返りシートへの記入</p> <p><b>準備物</b> “SWIH”をまとめた模造紙</p> <p><b>配布物</b> 生徒用テキスト、振り返りシート</p>	
<b>第9回</b>		実施日：6月30日、場所：ランチルーム
	<p><b>テーマ</b> 解決策を考える</p> <p>・相手と自分の両方を大切にすることわりかたを学ぼう</p> <p><b>内容</b> 【導入】前回の振り返り、テーマの説明、ウォーミングアップ“ある相談” [大学生が話す悩みを“FELOR”を実践して全員で聴き、“SWIH”を使った質問をして情報を引き出す]</p> <p>【主活動】</p> <p>・解決策を出し合う [グループになり、KJ法の手法で悩みを話し合い分類し、それらのメリットとデメリットを話し合う。グループの話し合いが完成したらグループごとに発表し合う]</p> <p>【まとめ】活動のまとめ、振り返りシートへの記入</p> <p><b>準備物</b> 付箋と模造紙とサインペン [KJ法に使用]</p> <p><b>配布物</b> 生徒用テキスト、振り返りシート</p>	
<b>第10回</b>		実施日：7月7日、場所：ランチルーム
	<p><b>テーマ</b> ストレスとの上手なつきあい方</p> <p>・ストレスの解消の仕方を話し合おう</p> <p>・ストレスへの対処の仕方を学ぼう</p> <p><b>内容</b> 【導入】前回の振り返り、テーマの説明、ウォーミングアップ</p> <p>【主活動】</p> <p>・ストレス対処法の分類 [①問題に立ち向かう対処、②気持ちについての対処、③人と人とのよいつながりによる対処、の3つの分類を紹介]</p> <p>・イメージ法の紹介</p> <p>【まとめ】活動のまとめ、守秘義務について説明、振り返りシートの記入、ピア・サポート訓練全体を通しての感想</p>	

## 大学生による学校現場でのピア・サポート訓練の取り組み

---

### 準備物

配布物 生徒用テキスト, 振り返りシート, 感想文用紙

---

### 引用文献

- コール T. バーンズ亀山静子・矢部 文 (訳) 2002 ピア・サポート実践マニュアル 川島書店 (Cole, T. 1999 *Kids Helping Kids. Canada: Peer Resources.*)
- 古屋昌美・中野良顕 2004 ピア・サポート・プログラムの小学生への適用と効果の検討—人間形成のためのプログラム開発— 上智大学心理学年報, 28, 11-25.
- 菱田準子 2002 すぐ始められるピア・サポート指導案&シート集 ほんの森出版
- 池谷貴彦・葛西真記子 2003 児童の社会的スキルと自尊感情の向上に関する研究—ピア・サポート・プログラムの実践を通して— カウンセリング研究, 36, 206-220.
- 増田梨花 2004 いじめ対策としてのピア・サポート—イギリスの学校現場の視察から— 駒澤大学心理臨床研究, 3, 35-44.
- 松田文子・三宅幹子 2005 大学生による学校現場でのピア・サポート訓練の取り組み—児童・生徒の自己効力感・自尊感情・社会性における効果— 福山大学人間文化学部紀要, 6, 1-12.
- 森川澄男 2002 ピア・サポートとは (理論編) 中野武房・日野宣千・森川澄男 (編著) 学校でのピア・サポートのすべて ほんの森出版
- 中林浩子 2005 ピア・サポートを始める前に、こんな準備を 月刊学校教育相談2005年3月号, 30-33.
- ヤギ D. 増田梨花 2004 アメリカのピア・サポートの現状と実践 駒澤大学心理臨床研究, 3, 50-53.
- 吉田益美 2003 ピア・サポートを始める際の留意点 月刊学校教育相談2003年3月号, 10-15.

**謝辞** この取り組みにご参加・ご協力くださった、児童・生徒のみなさん、小・中学校の先生方、教育委員会の先生方、関係者のみなさまに、心より謝辞を申し上げます。

三宅 幹子・山崎 理央・松田 文子

## Peer Support Training Project by undergraduate students in primary and junior high schools: Method

Motoko MIYAKE, Rio YAMASAKI, and Fumiko MATSUDA

The purpose of this paper was to report on the process and curriculum of our peer support training project by undergraduate students for primary school children and junior high school students. Some of characteristics of our project were that (a) undergraduate students carried out the training in the formal school curriculum and (b) it was based on cooperation among the primary school children and their teachers, junior high school students and their teachers, undergraduate students and their teachers, and the board of education.

[Key words: peer support, primary school and junior high school, undergraduate students]